

2021年 8月13日

2021年度・公式規則変更内容・決定報（修正）（全 6 頁）

公益社団法人日本アメリカンフットボール協会
競技規則委員会



アメリカンフットボール公式規則を以下のように変更します。

[1] 2021年度・公式規則変更主要項目の解説は、今年の公式規則変更を解説したものです。

[2] 2021年度・主な編集上の変更項目の解説は、今年の主な編集上の変更を解説したものです。

[3] 2021年度・公式規則変更は、本年度変更される条文を掲載したものです。

この公式規則変更は2021年秋季公式戦より適用します。

7月7日に発行した2021年度・公式規則変更内容・決定報の[3]2021年度・公式規則変更に以下の追記、修正を行います。

・12-3-6-bの条文を追加。

・A. R. 3-2-3を「第4条 節の延長」から「第3条 節の延長」に修正。

・A. R. 6-1-2を「第4条 フリー キック フォーメーション」から「第2条 フリー キック フォーメーション」に修正。

[1] 2021年度・公式規則変更主要項目の解説

2021年度の公式規則変更主要項目は、次のとおりです。なお、各々の解説の最後の（ ）内の英数字は、この変更が行われる公式規則の、2020～2021の公式規則・公式規則解説書における主たる「篇一章一条」を表します。

(1) チーム エリアの拡大

☆ 従来、チーム エリアは、フィールドの両側 25 ヤード ラインの間と規定されていた。

★ 本年より、チーム エリアは、両 20 ヤード ラインの間となる。チーム エリアの範囲および内外での制限に関するその他の規定は、従来のみである。 (1-2-4-a 変更)

(2) 超過節の規定の変更

☆ 従来、超過節(両チームそれぞれ 1回のポゼッション シリーズ)は、試合の勝者が決定されるまで、4回目の超過節までは 25 ヤード ライン上から繰り返され、5 回目の超過節の始まりからは 3 ヤードの地点から 2 点のトライの 1 プレーだけを行うという規定であった。また、3 回目および 4 回目の超過節においては、タッチダウンを得点した後は 2 点のトライでの得点のみが有効であった。

★ 本年より、2 回目までの超過節は従来通り 25 ヤード ライン上から開始され、3 回目の超過節の始まりからは 3 ヤードの地点から 2 点のトライの 1 プレーだけを行う。また、2 回目の超過節においては、タッチダウンを得点した後は 2 点のトライでの得点のみが有効となる。 (3-1-3-e および f 変更)

(3) 負傷を装うこと

☆ いかなる理由であれ負傷を装うことは、フットボール綱領のコーチの倫理 g 項で強く戒められている。ま

たルールの強調点には、ディフェンスのプレーヤーが負傷を装うことでテンポを遅らせる、あるいはオフエンスのリズムを崩す等の利益を得ることに対する対応等が記されている。

- ★ 本年より、関係者の事前合意があれば、チームおよび当該チームが所属する競技団体は、当該試合担当の審判組織に対して、負傷を装うことが疑わしい行為に関してビデオによる検証を求めることができる。

(3-3-5-b 追加)

[2]2021年度・主要な編集上の変更項目の解説

2021年度・主要な編集上の変更項目は、次のとおりです。なお、各々の解説の最後の()内の英数字は、この変更が行われる公式規則の、2020～2021の公式規則・公式規則解説書における主たる「篇章一条」を表します。

(1) チーム エリアに入ることができる人数の規定の変更

- ☆ 従来、チーム エリアに入ることができるのは、公式規則どおりのユニフォームを着用した登録選手と、試合に直接関係のある最大 60 名までのチーム関係者で、1 から 60 までの連続した番号が振られた特別のチーム エリア入場証明書(許可証)を着けなければならないと規定されていた。
- ★ 本年より、チーム関係者の人数は 50 名に変更される。医務担当者はこの 50 名に含まれず、異なる証明書(許可証)を着用することと規定される。(1-2-4-b 変更)

(2) 試合ボールの数の規定の変更

- ☆ 従来、試合ボールは各チームそれぞれ 6 個以下と規定されていた。
- ★ 本年より、試合ボールは各チームそれぞれ 10 個以下と規定される。(1-3-2-a 変更)

(3) ジャージのデザインの規定の追加

- ☆ 従来、ジャージの中に着用するアンダーウェアについての規定はなかった。
- ★ 本年より、アンダーウェア(例:Tシャツ)は腰(ベルトの線)より下でパンツの外に出してはならないと規定される。(1-4-5-a-1 追加)

(4) 節の延長を行う場合の規定の変更

- ☆ 従来、節の時間が終了となったダウンで、デッド ボール中の反則として罰せられないライブ ボール中の反則があり、その罰則が受諾された場合は節が延長されるが、ボールを確保しているチームが反則を犯し、その罰則がロス オブ ダウンを含む場合は、節を延長しないと規定されていた。
- ★ 本年より、節の時間が終了となったダウンで、ボールを確保しているチームが反則を犯し、その罰則がロス オブ ダウンを含む場合、被反則チームは節の延長を選択することができる。(3-2-3-a-1 変更)

(5) スポーツマンらしからぬ行為として禁止される行為の追加

- ☆ 従来、バンドを含む公式規則の適用を受ける者が、チームがシグナルを聞き取れないほどの騒音を発生することは禁止されていた。
- ★ 本年より、音声による妨害に加え、視聴覚機器・照明設備オペレーター等、公式規則の適用を受ける者

が、ビデオボード(ビジョン)やデジタル ライティング システムでプレーヤー等の気を散らすような視覚による試合の妨害も、スポーツマンらしからぬ行為の反則となる。(9-2-1-b-5 変更)

(6) バンドや視聴覚機器・照明設備オペレーター等の禁止される行為の罰則の変更

- ☆ 従来、バンド等の禁止される行為は、デッド ボール中の反則として罰則を科せられていた。
- ★ 本年より、バンドや視聴覚機器・照明設備オペレーター等の禁止される行為に対して、レフリーは、ダウンを繰り返す、15 ヤードの罰則を科す、得点を与える、試合を中止するまたは没収するなど、適切と考えるいかなる措置も行うことができる。なお、9-2-1-b-1~4 の罰則は従来のみである。

(9-2-1-b-5 罰則 変更)

(7) ひきょうな行為の明確化

- ☆ 従来、プレーヤーおよび審判員以外の交代選手、コーチまたは公式規則の適用を受ける者は、ひきょうな行為の対象に含まれていなかった。
- ★ 本年より、プレーヤー以外の交代選手、コーチまたは公式規則の適用を受ける者が、プレー中にボールまたはプレーヤーに対して行ういかなる妨害もひきょうな行為であると明確化される。

(9-2-3-c 追加)

(8) インスタント リプレーにおけるゲーム クロックを修正する規定の追加

- ☆ 従来、リプレー オフィシャルは、判定をレビューした際のゲーム クロックを修正することができた。
- ★ 本年より、ゲーム クロックの修正は、判定を変更(リバース)し、その結果、ゲーム クロックが前半の残り時間 2 分未満あるいは後半の残り時間 5 分未満となる場合に限ると規定される。なお、公式規則 12-3-7(試合の結果に重大な影響を与える可能性がある明らかなエラーは訂正できる)に変更はない。

(12-3-6-b 追加)

[3]2021年度・公式規則変更

本年度変更される条文は次のとおりです。この公式規則変更は2021年秋季公式戦より適用します。記載は、次の規則に従っています。

- ① 「篇章一条」の後の(新規)、(追加)、(変更)、(削除)、(移動)は()内の事項が行われた事を示し、それに続く規則文は新変更文である。なお、新規、追加、変更の各用語は次の原則で使用する。
新規: 篇章一条、あるいはその下位の項目の単位で、新規に条文が定められた場合。
追加: 文の単位で新たに条文が定められた場合。
変更: 一つの文の中で、条文の変更(単語等の追加を含む)が定められた場合。
なお、新規、追加、変更、削除等が混在する場合は、変更として扱う。
- ② 下線部は、変更、追加が行われた場合にその部分を示す。削除に関しては削除された部分を« »で囲み、削除文字上に二重線を引いてある。
- ③ 新規の条文の発生、および削除に連動した既存の「篇章一条」およびその下位の項目の番号の変更に

関しては、原則として、この決定報に記載していない。

- ④ 他の規則との関係、見易さの向上等のため、競技規則の変更がない場合も、多くの記載場所、編集上の変更を行っている。異なる篇へ記載が変わった場合について、(移動)と記し、【注:……】という形式で内容を記載している。

- 1-1-6-b 変更 公式規則が適用される対象者は、チーム エリアにいるすべての者、プレーヤー、交代選手、被交代選手、コーチ、トレーナー、チアリーダー、バンド関係者、マスコット、場内アナウンサー、視聴覚機器オペレーター、照明設備オペレーター、および両チームや競技団体などの関係者等である。
- 1-2-4-a 変更 交代選手、トレーナーおよびチーム関係者のみによる使用を目的として、リミット ラインの外側で両20~~25~~ヤード ライン間の範囲を、チーム エリアとしてフィールドの両側に設ける。両20~~25~~ヤード ライン間のサイドラインの外側6フィート(1.83m)に、コーチング ボックスの前面として実線を引かなければならない。両20~~25~~ヤード ライン間のコーチング ラインとリミット ラインで囲まれた地域は、白の斜線を引くか、またはコーチの使用が明白に識別できるマークがされていなければならない。(以下、省略)
- 1-2-4-b 変更 チーム エリア(参照:付録D)に入ることができるのは、公式規則どおりのユニフォームを着用した登録選手と、試合に直接関係のある最大50~~60~~名までのチーム関係者である。チーム エリアのすべての関係者は、公式規則の適用を受け審判員の決定に従わなければならない。(参照:1-1-6)公式規則どおりのユニフォームを着用していない50~~60~~名までのチーム関係者は、1から50~~60~~までの連続した番号が振られた特別のチーム エリア入場証明書(許可証)を着けなければならない。医務担当者は50名のチーム関係者数には含まれないが、異なる証明書(許可証)を着けなければならない。他の証明書(許可証)ではチーム エリアに入ることはいできない。
- 1-2-4-c 変更 両20~~25~~ヤード ライン間のコーチング ラインとリミット ラインで囲まれた範囲にコーチは入ってもよい。この区域をコーチング ボックスという。
- 1-3-2-a 変更 両チームから提出されたそれぞれ10~~6~~個以下の試合ボールの検査および判定は、試合前および試合中を通じて、当該試合を担当する審判員が行う。(以下、省略)
- 1-4-5-a-1 追加 ショルダー パッドを完全に覆う袖があること。裂けやすいように改造やデザインがされていないこと。ジャージは十分な長さが必要であり、かつパンツの中にしまわれているか、下端が腰のラインと同じ長さにそろっていること。アンダーウェア(例 Tシャツ)は腰(ベルトの線)より下でパンツの外に出してはならない。腰および腰より上部にあるすべてのパッド類はジャージで覆われていなければならない。公式規則1-4-5のすべての要件を満たす場合、2枚目のジャージを重ね着してもよい。ベスト、またはジッパー、ベルクロ、留め金、その他のファスナーが付いたジャージは禁止する。
- 3-1-3-e 変更 ポゼッション シリーズ:それぞれのチームは、ポゼッション シリーズの間に得点をあげるか、新たな第1ダウンの獲得に失敗するまで、ボールを所有する。ボールのチーム確保の変更の後

は、ボール デッドが宣告されるまでライブ ボールのままである。しかし、チーム確保の変更後に再びAチームがボールを確保しても、新しい第1ダウンを得ることはできない。(A. R. 3-1-3- I ~ IX)3<<5>>回目以降の超過節でのポゼッション シリーズでは、罰則による変更がない限り、各チームは3ヤードの地点から2点トライの1プレーだけを行う。

- 3-1-3-f 変更 得点: 通常の4つの節と超過節の合計得点の多いチームが試合の勝者となる。前記e.で定めた規定のとおり、各超過節には両チーム同じ回数のポゼッション シリーズを行わなければならない。ただし、Bチームがトライ以外で得点した場合を除く。2<<3>>回目の超過節の始まりからは、タッチダウンを得点したチームは2点のトライをしなければならない。Aチームによる1点のトライは不正ではないが、得点として認められない。(A. R. 3-1-3-X)
- 3-2-3-a-1 変更 デッド ボール中の反則として罰せられないライブ ボール中の反則があり、その罰則が受諾された場合。(例外: 10-2-5-a)ボールを確保しているチームが反則を犯し、その罰則がロス オブ ダウンを含む場合は、被反則チームの選択により節を延長しない。(A. R. 3-2-3-VIII)
- 3-3-5-b 追加 いかなる理由であれ、故意に負傷を装うことは非倫理的行為である。負傷したプレーヤーは公式規則に従い十分保護されるべきである。しかし、故意に負傷を装うことは、不正直でスポーツマンらしからぬ行為であり、公式規則の精神に反することである。競技団体内の合意、あるいは異なる競技団体に所属するチームの試合では試合前に両チームおよび両チームが所属する競技団体の合意があれば、以下の対応ができる。試合中の疑わしい行為について、チームあるいは競技団体は、当該試合担当の審判組織にビデオのレビューを求めることができる。レビューの結果、当該試合担当の審判組織は、当該行為を行ったチームの責任者にその見解を伝える。負傷を装うこと<<により試合時間を得て利益を得ること>>は、フットボール綱領(参照: コーチの倫理-g)で強く戒められている。
- 3-4-5 新規 10秒減算のまとめ
10秒減算が適用されるのは以下の項目である。
a. 負傷者のためのタイムアウト(参照: 3-3-5-f)
b. ヘルメットが脱げた場合のタイムアウト(参照: 3-3-9-b)
c. 反則(参照: 3-4-4)
d. インスタント リプレー(参照: 12-3-6-c)
- 9-2-1-b-5 追加 バンドを含む公式規則の適用を受ける者は、チームがシグナルを聞きとれないほどの騒音を発生してはならない。また、視聴覚機器・照明設備オペレーター等、公式規則の適用を受ける者が、ビデオボード(ビジョン)やデジタル ライティング システムでプレーヤー等の気を散らすような視覚による試合の妨害を行ってはならない。
罰則: スポーツマンらしからぬ行為。レフリーは、ダウンを繰り返す、15ヤードの罰則を科す、得点を与える、試合を中止するまたは没収するなど、適切と考えるいかなる措置も行うことができる。[S27]
- 9-2-3-c 追加 公式規則には規定されていないが、試合中に明らかにひきょうな行為を行うこと。これには、プレーヤーおよび審判員以外の交代選手、コーチまたは公式規則の適用を受ける者が、ボール

がプレー中にボールまたはプレーヤーに対して行ういかなる妨害も含まれる。

- 12-3-6-b 追加 判定をレビューした際のゲーム クロックの修正および状況。ゲーム クロックの修正は、判定を変更(リバース)し、その結果、ゲーム クロックが前半の残り時間2分未満あるいは後半の残り時間5分未満となる場合に限る。

【以下は、公式規則解説書の変更項目である。】

第3条 節の延長

A. R. 3-2-3

- VIII. 前半最後のプレーで、A12がニュートラル ゾーンを越えた地点から投げたパスが、Bチームのエンド ゾーンにいるA88に対して成功し、残り時間がなくなった。判定:Bチームが罰則を受諾し、得点は取り消される。罰則がロス オブ ダウンを含んでいるので、被反則チームが選択すれば、節は延長されず、前半終了。

第2条 フリー キック フォーマーション

A. R. 6-1-2

- VIII. 試合終了間近に同点の状況で Aチームは 陣35ヤード ラインからフリー キックのフォーメーションについた。キッカーA10は明らかなオンサイド キックのために 右のハッシュにボールを置いた。レフリーのレディ フォープレーのシグナルの後 A10はボールに近づいてそれを拾い上げ自陣35ヤードの左ハッシュに走っていき、ボールを置いて、すぐにキックを行った。~~「Aチームは、転がったボールを自陣46ヤード ラインで正当にリカバーした。ボールをキックしたときに、Aチームはキッカーの両サイドに少なくとも4人のプレーヤーがいなければならないという条件を満たしていた。」~~ 判定:Aチームの選択によって一度ボールがハッシュ マーク間に置かれ、レディ フォー プレーとなった後は、タイムアウトの後でなければ ボールの位置を変えることはできない。~~デッド ボール中の反則。プレビース スポットから5ヤードの罰則。「ライブ ボール ファウル。プレビース スポットから5ヤードの罰則で、キックを蹴りなおす。もしBチームがAチームの46ヤード ラインでリカバーしていたとしたら、Aチームの46ヤード ラインから5ヤードの罰則を施行した後で、Bチームはボールをスナップすることも可能である。」~~

以上